

外国語（英語）

1 英語科教育の課題

基礎的・基本的な知識・技能の育成では

- 基本的な語彙や文構造などを十分身に付けさせること。
- 情報を整理したり，対話の流れを理解したりして読むことを十分身に付けさせること。

自ら学び自ら考える力の育成では

- 内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力を十分身に付けさせること。
- 聞いたことに対して応答するなどの表現する力を十分身に付けさせること。

2 課題解決のためのポイント

P

- 実態把握と問題点の絞り込み
 - ・ 英語科教育において直面している問題の明確化
 - ※ 小学校の英語活動，中学校の学習状況をアンケート等で把握
- 具体的な到達目標と評価の視点，場面，方法の明確化
 - ・ 到達目標をもとに，単元，本時等における段階的な目標の設定
 - (例) 300語程度の英語を読んで概要をとらえることができる。
 - 短時間で5文程度のまとまりのある英文を書くことができる。
- 指導内容の焦点化

D

- 「言語の使用場面」の設定や「言語の働き」を意識
- 各領域のそれぞれの指導事項と他の領域の指導事項との関連
- 学習形態（ペアワーク，グループワーク等）の工夫
- 視聴機器（OHP, CD, PC, VTR, 教材提示装置等）の効果的活用
- ALT等ネイティブスピーカーとの連携と活用
- コミュニケーションを図る活動と言語材料について理解したり練習したりする活動とのバランス

知識理解を深める
言語活動

➡

気持ちや考えを伝え合う
言語活動

C

- 多様な評価活動
 - ・ 評価方法：観察，アンケート，ワークシート，テスト等
 - ・ 評価者：生徒自身，生徒相互（グループ，ペア），英語教員，ALT等
- 評価規準に照らした適切な評価場面，評価方法での評価
- 目標達成に向けた個に応じた手立て

A

- 具体的な分析と改善策
 - ・ 到達目標に対し，何が，どの程度達成されていないのか。
 - ・ 達成できなかった原因の分析及び問題点の整理
 - ・ PLAN, DO, CHECK の各段階における実践の見直し

⇒具体的な改善策の提示

言葉と体験 ➡ 習得から活用へ。コミュニケーションを図る活動を重視すること。
(Mechanical Level ⇒ Semantic Level ⇒ Effective Level)

3 課題解決のための授業改善事例

(1) 小学校英語活動

自分の好きな動物について、ALT や留学生に伝えよう

課題例

英語活動を通して育みたい具体的な目標を設定しないまま、ゲーム中心の活動に終始している。

- 活動内容が児童の興味・関心に即していない。
- 言語材料の難易度や量が不適切である。
- 英語の文法等を身に付けるためのスキル学習を重視している。

改善

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、国際理解を深めることを重視

P

育むべき児童像と目標の明確化

- ・児童の言語環境の把握
- ・児童の興味・関心の把握
- ・地域人材及び環境の把握
- ・保護者・地域のニーズの把握
- ・教材・資料等の収集や開発

- ・児童の興味・関心の高い題材の選択
- ・他教科等との関連
- ・児童の身近な言語の使用場面の設定
- ・視聴覚機器の活用
- ・ALT 等のネイティブスピーカーの活用

A

具体的な分析と改善案

- 【目標の達成状況の分析】
- 活動内容について
 - ・児童の興味・関心に即していたか。
 - ・言語材料の難易度や量は適切であったか。等
 - 指導方法について
 - ・反復練習に終始していなかったか。
 - ・児童の発達段階に応じた活動であったか。等
- ⇒授業改善の日常化・組織化

英語を使ったコミュニケーション活動

D

- 【目標】『自分の好きな動物について、相手に伝えることができる。』
- 【言語の使用場面】『自己紹介』
- 【指導方法の工夫】
- 既知の事柄に新しい視点を与える
ALT, 視聴覚機器等を活用し, cat, lion などの日本語と英語の音声の違いに気づかせる。
 - 動的な活動と静的な活動とのバランス
動作を交えた歌やチャンツなどの活動と絵本の読み聞かせなどを効果的に配列をする。
 - 英語を使ったコミュニケーション活動の体験
ALT, 留学生等の外国人との交流を通して, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- (例) 児童 : Excuse me. I have a question.
ALT : Yes.
児童 : I like cats. What animals do you like?
ALT : I like tigers.
児童 : Thank you.
ALT : You're welcome.

C

目標に準拠した指導と評価の一体化

- 【具体的な評価場面】
英語でのコミュニケーション活動を体験させることで、児童の変容を見取る。
- 【具体的な評価の観点(例)】
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
 - ・言語や文化に対する理解
 - ・音声, 会話表現などの英語のスキル
- ⇒中学校の英語教育を見通して, 英語を学ぶ動機付けや言語やコミュニケーションに対する理解を深めることを重視

(2) 中学校

My Home Town ~自分の町を紹介しよう There is/are~ (第2学年)

課題例 表面的, 機械的に理解したり表現したりする活動に留まり, 実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動ができていない。

Presentation
(新出言語事項の提示)



Practice
(その新出言語事項の練習)

改善

Presentation



Practice



具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考える言語活動

P 客観的な実態把握, 具体的な目標設定, 適切な題材選択

【実態把握に基づいた生徒分析】
 ・ be 動詞の定着が不十分
 ・ 一文での応答になりがち
 ・ 身近な暮らしに関わる場面での表現活動を好む。



【具体的な目標設定】
 5文以上の英文で自分の町を紹介することができる。



【目標達成のための工夫】
 ・ 単元を通した be 動詞の反復練習
 ・ 四領域の関連
 ・ 学習形態の工夫
 ・ 言語の使用場面の設定

A 具体的な分析と改善案

- 到達目標と結果の差
- 達成されなかった原因の分析
 ⇒ ・ 何がどの程度達成されていないか。
 ・ なぜ達成されなかったのか。
- クラス全体での発表とQA
 ⇒ 「話すこと」と「書くこと」との関連
- 英語科通信への掲載, 作品掲示
 ⇒ さらなる動機付けや意欲付け

D 表現活動のための橋渡しの工夫

- Warming Up を活用し, be 動詞の反復練習
 ⇒ 基礎・基本の徹底
- 学校周辺の現在の写真と20年前の写真を使用した新出言語事項の提示と練習
 ⇒ 身近な題材選択による興味付け
- 学校や自宅周辺の様子についてのペア活動
 ⇒ 話す必然性, 学習形態及び会話の継続の工夫
 (例) A: Is there a Yakiniku shop near your house?
 B: Yes, there is. Do you like Yakiniku?
 A: Yes, I do. I like it very much.

C 多様な評価活動

- グループ内での相互評価
 ⇒ ・ 主として「読むこと」「書くこと」
 ・ 原稿を読み合い, 互いにフィードバック
- ペアでの相互評価
 ⇒ ・ 主として「聞くこと」「話すこと」
 ・ 発表し合い, 互いにフィードバック
- ALT からの評価
 ⇒ ・ 主として基本的な英語の音声
 ・ 生徒の英文を聞き, 個別に指導
- 英語教員からの評価
 ⇒ ・ 主として構成及び内容
 ・ ワークシートによる個別評価

- ☆ 表現活動に向けた基盤づくりについての評価
 ・ 新出言語事項の定着度 (知識・理解, ワークシート)
 ・ 適切な応答 (表現, ALT へのインタビュー)
 ※課題の見られる点について再練習
- ☆ 自分の町を紹介する英文づくり
 ○ 事実の羅列ではなく, 話題を焦点化させる
 ⇒ 目標達成のための具体的な指示
 ○ ALT, 先輩等のモデル文の提示
 ⇒ 目標達成のための具体的な手立て

(3) 高等学校

Lesson 7 So Many Countries, So Many Laws
～ 自分たちの学校の校則について表現しよう ～

課題例

内容的にまとまりのある一貫した文章を書く際に、他の領域と有機的に関連付けた活動を行っていない。

読んだ内容を理解する活動と「That's because～」を用いて英文を書く活動がそれぞれ単独で行われ、生徒は何について書いたらよいかわからない場合がある。

生徒が書いた文章を他の生徒に伝える機会がないため、書く目的がただ構文の定着のためだけとなり、生徒が書こうという意欲を十分に高めていない。

改善

P

生徒の実態把握、具体的な目標設定、適切な題材選択

【改善計画の立案】

- ・指導方法の改善の必要⇒自分の考えを正確に書くために必要な知識を定着させるための練習を十分に取られる。

【生徒の実態把握】

- ・自分の考えについて書くことができない生徒の状況や割合を把握する（広島県高等学校共通学力テストの結果から）。
- ・日常生活の身近な話題について話す活動に興味をもっている生徒が多い（入学時の英語学習についてのアンケート結果から）。

【具体的な目標設定】

- ・3文以上の英文で、自分の考えを書くことができる。

【適切な題材選択】

- ・世界の法律とその背景にある生活習慣を理解した後に、自分の学校の身近な話題である校則について取り上げる。

A

目標の達成状況の分析

【目標の達成状況の分析】

- ・目標達成状況と目標との差を確認する。
⇒①75%の生徒が自分の考えを3文以上で書いている。
②正確に書いている生徒の割合が30%である。
- ・達成できなかった原因を分析する。
⇒正確に書くための基本的な構文や表現方法の練習をする必要がある。

書くことの指導の効果を高める工夫

D

【他の領域との関連付け】

- ・読んだ内容を理解し参考にして自分の考えを書く機会を与える。
- ・書いたことについて発表する活動を取り入れる。

【書く目的の重視】

- ・ALTに自分たちの学校を口頭で紹介するために書く。

【段階をおった活動】

- ・自分の考えを書く際に、基本的な構文やよく用いられる表現を例示し、書き方を示す。

C

ねらいの焦点化による指導と評価の一体化

【適切な評価規準】

- 次に3つの評価規準の例を示す。生徒の学習段階、単元の目標等を十分に考慮した上で、焦点をしばって評価する必要がある。
- ・分量は3文以上書くことができているか。
 - ・正確に書くことができているか。
 - ・自分の考えを書くことができているか。